

平成29年度年度 美術館自主事業一覧

	事業名	会期	内容	鑑賞者数
企画展	1 何必館コレクション 北大路魯山人展 一和の美を問うー	2017年4月15日(土) ～6月11日(日)	日本随一の内容を誇る何必館・京都現代美術館所蔵の魯山人コレクションの中から厳選した作品を、「陶」「書」「茶」「花」「食」の5つのテーマに分けて展示。それぞれのテーマに合った空間を、作品の魅力を一層引き立たせる古材や更紗(さらさ)、根来(ねごろ)などと取り合わせて演出することで、「用の美」にこだわり続けた魯山人の創作世界とその精神を、より鮮明に紹介する。	14,615人
	2 素描の魅力 ー作家のアトリエからー	2017年6月28日(水) ～7月30日(日)	素描は、人の目に触れることを前提に制作した「作品」ではありません。画家が日々の生活の中で目にする気になる対象や旅先の情景、頭に思い浮かんだイメージや作品の構想など、作品の元になるモチーフやイメージを気の向くままに描きとめたものです。写真のように対象を細部まで克明に写し取ったものもあれば、見た印象を鮮やかな色彩で写し取ったもの、また、気分にかかせて筆を走らせたものもあります。その臨場感あふれる生き生きとした描写や、即興性にとむ躍動するイメージは、完成した作品とは異なる独自の魅力を放っています。 本展は、当館のコレクションの中から、日本画の福田平八郎、高山辰雄、岩澤重夫、洋画の宇治山哲平、佐藤敬らの特長的な素描を精選してご紹介します。また、関連する本画も併せて展示し、彼らが日々なにを見つめ、いかにして作品を生み出そうとしていたのか、その創作の舞台裏に迫る。	2,736人
	3 ジブリの大博覧会 ～ナウシカからマーニーまで～	2017年7月7日(金) ～9月3日(日)	世界に冠たる日本のアニメーションをリードしてきたスタジオジブリ。珠玉の作品群を世に送り出す豊かな創造性と、その伝播を世界規模で支えてきた30年の宣伝の軌跡を、膨大な未公開資料とともに紹介するジブリファン必見の展覧会。	194,564人
	4 20世紀の総合芸術家 イサム・ノグチ ー彫刻から身体・庭へー	2017年11月17日(金) ～2018年1月21日(日)	彫刻をはじめ、舞台美術、家具、照明器具のデザイン、さらには、公園などのランドスケープ・デザインにまで、幅広い活動を展開した20世紀を代表する芸術家イサム・ノグチ。芸術と社会のつながりの回復を願った、ノグチの開かれた芸術、その革新的なヴィジョンを、国内外から精選した作品で紹介する。	11,015人
	5 歌心と絵ごろの交わり 二豊路 漂泊の画人 佐藤 溪 と 俳人 種田山頭火	2018年2月9日(金) ～2018年3月11日(日)	由布院の地で生涯を終えた詩人画家・佐藤溪の旅情あふれる作品群と、かつて二豊路を旅したこともある漂泊の俳人・種田山頭火に関する資料類をあわせて展示し、旅にまつわる創作の醍醐味を作画と詩作両面から紹介する。	3,068人

計 225,998人